

矢島渚男先生 文化功労者受賞おめでとうございます

神田(堀内)愛子(10組)

ニュースは10月25日に俳句仲間から知らされ、翌日の新聞で確認しました。

私が矢島先生と初めてお会いしたのは、高校一年生の時。担当の先生の都合で代わりに授業に来てくださった。丸々のお顔をにこにこさせて「進学で悩んでいたら相談に来るように・・・」とか何とかおっしゃったように記憶していますが。

あれから何十年。仕事の合間に短歌・俳句の通信教育を受けていた私は、思い切って上田広報の俳句欄に投句してみました。選者は矢島渚男(本名:薫)先生。

その時の入選句 **梅雨晴れの空へ全校合唱す・・・愛子**

その後も、**上向きの蛇口の好きな赤とんぼ・・・愛子** などが載り、それを契機に先生主宰の結社「梟」に入会して早20年かな?

先生の御指導は大変に厳しく、「対象を良く見る。俳句は一人称。必ず推敲する。常に辞書を引く。言葉にこだわる・・・」「て・に・を・は」は特に厳しく、一字変えただけでがらりと変わるのにはびっくりしました。自分の日本語の使い方や言葉に対する認識の甘さがよくよく分かりましたが、いまだに失敗続きです。

先生の最近のご様子は、圧迫骨折から、3ヶ月程句会出席をお休みし、一度「梟」誌を休刊しただけで、現在は元気に句会に出てくださっています。われわれ仲間には以前にも増して先生の教えを一言も逃すまいと必死の句会が続いています。先生は歴史や古典は勿論、宇宙も大切にしておられ、歴史的に怪しい句はダメ。私が一番勉強になるのは、先生の句の鑑賞・評の文章です。先生から評を頂いた句は、数段と良くなり格調の高い句になってしまうのです。

先生の句集から、僭越ながら私・神田の好きな句を年代順に並べさせていただきます。

句集「木欄」より

父がまず走ってみたり風車

先生とお子さんとの様子かと思われます。

十一面観音堂へ麦の秋

「麦の秋」がこれほど効いている句はない。

ひそひそと茸の山になってぬし

大いなる声きかばやと枯野行く

句集「延年」より

咲き終へて桜は山の木にもどる

月明のとほくと話す桂の木

凍る夜は隣の山がきて覗く

戦争がはじまる野菊たちの前

やや永く人生はあり冬花火

句集「冬青集」より 第五十回蛇笏賞受賞

あたたかや一人一人に大事な句 さくら咲け瓦礫の底の死者のため
つくづくと芽のものうまき五月来ぬ ・・・・先生は大変なグルメです。

句集「何をしに」近刊より

雪よ降りふるさに住み果つるまで この年も暮れゆくささらほうさらと
炎天やことばに生きるほかはなく ・・・・鹿教湯温泉プールに通っていて丈夫です。
わが初湯山のプールに横泳ぎ

先生の最近の句より

飢えながら楽し気に群れ寒鳥 最近私が一番好きな句です。
自分らしく生きるが実存沙羅の花 2024年「梟」8月号
花々の命をささげ迎へ盆 2024年「梟」9月号

矢島先生の御指導・・・「梟」誌より

「切れとシンプル

俳句は言うまでもなく、人類世界で最短の定型詩である。短いから何も言えないのではなく、短いからかえって、宇宙から人類史すべてを言える素晴らしい詩型だと私は考えている。先日、テレビで『究極はシンプル』という言葉を知った。例のアインシュタインのエネルギー定義も実にシンプルではないか。科学も芸術も極まるところはシンプルなのだ。『俳諧自由』。これもシンプルな芭蕉の言葉だが、『自由』に私は『格調ある自由』と付け加えたい。格調は調べと切れが与えてくれる。中でも『切れ』が重要な要素であり、技法である。そしてシンプルを目標にしたい。今日の俳句が貧弱なのは切れが薄く弱いことにある。

何をしにホモサピエンス星月夜 渚男

先生のお言葉は一つ一つ身にしみ、先生との句会・時間は大変に貴重に感じられます。先生どうかいつまでもお元気で、これからもご指導宜しく申し上げます。あらためて、受賞おめでとうございます。 以上

(2024年10月31日記)